

別紙 1

1 環境保全活動に関する方針等

＜環境保全活動に関する方針等＞

【環境方針】

[理 念]

私たちは、地球環境の大切さを十分認識し、環境に配慮した企業活動を通して恵み豊かな地球の存続に貢献します。

[指 針]

1. 事業活動全般について、省エネルギー、省資源、廃棄物の削減・再資源化及び地球温暖化物質等の排出抑制に努め、汚染の予防を推進します。
2. 事業活動の各段階で環境に配慮した商品・サービスの提供に努めます。
3. 環境に関わる法律を遵守するとともに、自主基準を設定し事業活動を行います。
4. 環境目的・目標を定め、定期的に見直すことにより、環境活動の継続的改善を図ります。
5. 環境教育を通して環境意識の向上を図り、環境活動に積極的に取り組みます。
6. 社内外に必要な環境情報を公開します。

(目標・計画等の公表の方法についても記載のこと。)

2 推進体制の整備

＜環境保全活動に関する組織体制＞

部署名	担当内容
管理本部 総務部 環境推進グループ	環境関連窓口
生産SCM本部 SCM部 需給グループ	特定荷主の責任
生産SCM本部 生産部 工務グループ	環境測定および届出

別紙 2

3 環境保全活動の実施状況等

項目	取組結果	今後の取組計画 (2015年度計画)
1. 原油換算エネルギー量 原単位 2009年度から 年平均1%削減する。(生 産部門各グループ)	<ul style="list-style-type: none"> ・飲料グループでは製造工程改善等の省エネルギー活動の結果、生産数量8%減の条件のもと、2009年度比1.4%増加に抑えたが目標は達成できず。(2014年度は5.0%削減が基準) 直近5年間の年平均0.3%増加。 ・粉体グループでは製造工程改善等の省エネルギー活動の結果、生産数量81%減の条件のもと、2009年度比13.6%削減で目標を達成した。(2014年度は5.0%削減が基準) 直近5年間では年平均約2.9%削減。 	1. 原油換算エネルギー量原単位 2010年度から年平均1%削減する。
2. エネルギー総量を2009年度から年平均1%削減する。(生産部門各グループを除く全部署)	<ul style="list-style-type: none"> ・ノー残業デー月2回以上実施、空調機の温度設定厳守、昼間の消灯、蛍光灯の間引き、事務所一部LED照明導入等の省エネ活動を実施した。 ・伊丹本社全体の原油換算したエネルギー使用量は、2009年度比14%削減、また製造グループを除く部署でも2009年度比12%削減で目標を達成した。(2014年度は5.0%削減が基準) 	2. エネルギー総量を2010年度から年平均1%削減する。
3. 輸送方法の効率化の推進。 ガソリンを2011年度に対して使用量を3%削減する。	<ul style="list-style-type: none"> ・低燃費車(ハイブリッド車及びアイドリングストップ車)の導入により、2011年度比12.4%削減で目標を達成した。 ・その他に公共交通機関の活用、自転車利用及びエコドライブ等地道な活動を実施した。 	3. 輸送方法の効率化の推進。 ガソリンを2014年度使用量から1%削減する。
4. 廃棄物排出量を2011年度より26%削減する。(製品廃棄を除く)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き原材料の適正在庫管理、期限管理による廃棄品の削減及びファイル等事務用品の再利用等の活動を地道に実施した結果、2011年度比26%削減となり、目標達成した。 	4. 廃棄物排出量を2014年度より年1%削減する。(製品廃棄を除く)
5. 廃棄物の再資源化率98%以上を維持する。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は再資源化の難しい廃油及び廃アルカリ等が多く排出されなかったことにより、再資源化率は98.5%で目標達成に至ったが、引き続きこれらの再資源化を検討する。 	5. 廃棄物の再資源化率を99%以上にする。
6. 排水時に飲料を流さないなど水質汚濁防止活動、排水規制値遵守。	<ul style="list-style-type: none"> ・排水時に飲料を流さない等地道な取組み及び排水処理設備の安定稼働により、今年度のCOD値(46mg/L)については、昨年度(44mg/L)に近い水準を維持できた。またBOD値等の規制値を超えることは無かった。 (下水道の排水規制値、自主規制値ともに適合) 	6. 排水時に飲料を流さないなど水質汚濁防止活動、排水規制値遵守。

<p>7. 環境配慮型の包装資材を積極的に検討し、既存製品の改良及び新製品を開発する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボトル缶内面材料低減（1品目）、顆粒製品包材面積縮小による材料低減（1品目）、錠剤製品外装ケース廃止による材料低減（1品目）及び段ボールケースの材質軽減化（1品目）を実施。 ・一部商品の容器軽量化及びラベルの薄膜化を検討中。 	<p>7. 環境配慮型の包装資材を積極的に検討し、既存製品の改良及び新製品を開発する。</p>
<p>8. 紙使用量の削減、コピー用紙の再生紙使用率の維持・向上。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・紙使用量は、新システム導入に伴い相当量の紙使用量が見込まれたが、保管期限切れの裏紙利用等の地道な節約により、2013年度比5%増に抑えた。 ・コピー用紙の再生紙使用率は100%を達成できた。 	<p>8. 紙使用量の削減、コピー用紙の再生紙使用率の維持・向上。</p>
<p>9. 環境マネジメントシステム運用及び継続的改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループ単位で環境月報での報告により、活動を把握。 ・各グループ単位で本業に関する環境活動目標を設定し、PDCA活動推進を実施。 	<p>9. 環境月報による活動把握及びPDCA活動を推進する。</p>
<p>10. 環境に関する教育を実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・省エネ法の電気需要平準化推進に伴い、各職場で節電に関する学習会を実施。(10～3月) ・小型家電リサイクル及びエコドライブを題材とした学習会を実施。(10月) ・各グループ単位の環境教育(年度計画)の実施。(内部環境監査にて教育状況を確認。) 	<p>10. 環境に関する教育を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社内一斉教育 ・部署毎の教育
<p>11. 地域社会活動への参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業場周辺の清掃活動を実施。(週1回) ・全社員による事業場周辺の清掃活動を年2回実施。(5月、12月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業場周辺の清掃活動。 ・全社員による事業場周辺の清掃活動(年2回実施)。